

『父母恩重経』の『古本』校異

新 井 慧 誉

『古本』は、現時点で少くとも三四本が知られている。⁽¹⁾ そのうち三三本は敦煌で発見された写本であり、一本は名古屋の七寺所蔵の写本である。三三本の敦煌本はいわゆるスタイン本、ペリオ本、北京本、北京大学図書館本、上海博物館本、ロシア科学アカデミー東方研究所のオルデンブルグ本、中村不折本、李盛鐸本に含まれているが、その他の敦煌本については未調査である。未調査のものは各種目録の上で『父母恩重経』の経名を知るのみであって、はたしてそれが『古本』であるか否かは不明である。従ってそれら未調査の写本は後日、披見する機会を待たなければならない。

現在披見しえた三四本は、次頁に掲載するとうりである。⁽²⁾ そのうちS284は『大正蔵経』八五巻に底本として収録されているが、便宜上『大正蔵経』の頁数や行数も付記しておきたい。

三四本の写本には完本がいくつかあるが、本稿においてもS284すなわち略写本番号S84を底本とし、他の三三本を対校したい。⁽³⁾ そうすることで『大正蔵経』との関連が保たれるからである。

S84は都合五八行から成る。本文の一行はおおむね十七字であるが、十四字から十九字の間の場合もあってまちまちである。『大正蔵経』では一行十七字を原則として印刷しているので、各行の字数は底本とは一致しておらず、その結果行数も都合六〇行であって底本とはズレがある。いま校異を行うに当たり、底本の各行の頭部にカッコつきの通し番号を付

写本の種類	略写本 番号	写本番号	対応す る底本 の行数	『大正蔵経』85巻1403b16 ～1404a23との対応個所	
スタイン本	S 7	S 6007	45～58	1404a10～23	
	S07	S 1907	1～58	1403b16～1404a23	
	S08	S 5408	41～58	1404a5～23	
	S15	S 5215	1～24	1403b16～c17	
	S23	S 1323	1～58	1403b16～1404a23	
	S24	S 4724	36～58	1404a 1～23	
	S28	S 3228	28～58	1403c20～1404a23	
	S33	S 5433	1～37	1403b16～1404a 1	
	S42	S 5642	1～29	1403b16～c22	
	S48	S 1548	16～58	1403c 9～1404a23	
	S53	S 5253	1～58	1403b16～1404a23	
	S62	S 6062	55～58	1404a20～23	
	S65	S 865	35～57	1403c28～1404a22	
	S76	S 4476	4～58	1403b19～1404a23	
	S84	S 2084	1～58	1403b16～1404a23	
	S89	S 1189	1～58	1403b16～1404a23	
	ペリオ本	P19	P 3919A	1～46	1403b16～1404a11
		P85	P 2285	1～58	1403b16～1404a23
	北京本	北03	8203(辰36)	1～58	1403b16～1404a23
北05		8205(闕40)	4～58	1403b19～1404a23	
北06		8206(裳33)	2～58	1403b18～1404a23	
北07		8207(翔25)	8～57	1403c 2～1404a22	
北08		8208(柰28)	10～58	1403c 3～1404a23	
北09		8209(洪39)	20～58	1403c13～1404a23	
北10		8210(李85)	22～58	1403c14～1404a23	
北11	8211(霜81)	1～58	1403b16～1404a23		
北京大学図書館本	北大01	北大D101	36～58	1403c29～1404a23	
上海博物館本	上博56	上博56(44961)	15～58	1403c 8～1404a23	
オルデンブルグ本	俄04	Д×00304	46～58	1404a11～23	
	俄44	Д×00044	13～45	1403c5～1404a10	
中村不折本	中村		17～58	1403c10～1404a23	
李盛鐸本	リ26	李盛鐸 426	2～57	1403b17～1404a22	
	リ30	李盛鐸 230	9～58	1403c 1～1404a23	
七寺写本	七寺		1～58	1403b16～1404a23	

し、各行の字数は底本にあるがままに掲載する。それは底本の原型を少しでも温存したいがためである。

- ① 底本にある句点は私が付したものである。なお『大正蔵經』にみられる句点には誤謬が目立つ。
- ② 底本に対して各写本の対応する部分を「 \uparrow 」や「 \downarrow 」の記号で示し、かつ本文の左端にも矢印をもってその位置を明示する。
- ③ 『大正蔵經』八五卷の収録行数を便宜上、五行単位で底本の頭部に註記し、かつその改行位置を本文の左端に⊕をもって示す。

④ 註記中の \sim は、当該文字を含む下部の文字すべてを示す。

⑤ 註記中の \times は、当該文字がその写本に欠落していることを示す。

⑥ 註記中の□は、写本の破損により判読不能であるもの、または写本の破損はないらしいが写真撮影の不鮮明により判読が不能であるものを示す。なお、中川善教『讚父母恩重經』に「爛破」と註記されているものに該当する。

⑦ 註記中の \downarrow は、当該文字がそれ以下に註記した文字のようになっていて示す。

⑧ 当該文字が写本の破損等で部分的に欠けていても、明らかに当該文字であると認められれば、そのように認定し判読することとする。

⑨ (私見) は、校異者である私の見解を示す。

註

(1) 三四本の写本テキストについては拙稿「『父母恩重經』の『古本』のテキスト」豊山学報、第四〇号参照。

(2) 北京本は『敦煌遺書最新目録』にある通し番号を用い、その末尾二桁を略番号とする。従って従来の『敦煌劫餘録』における千文字を用いた中国式分類番号は、補助的に利用するにとどめる。

(3) 『古本』の校異は、かつて拙稿「敦煌本『父母恩重經』校異」二松学舎大学論集、昭和五三年、七七頁以下に試みたことがある。しかしそれは底本に『大正蔵經』八五卷の印刷本を用いたため、印刷時のミスプリントや編者の恣意によると思われる写本文字の変更に、十分留意しないままに処理したきらいがある。

⊕85卷1403b16

S07, 15, 23, 33, 42, 53, 84, 7
89, P19, 85, 北03, 11, 七寺

(1) 佛説父母恩重經

1 佛¹ 〇¹ S07 15 23 33 42 53 84 89 P19 85 北03 11 七寺
2 佛² 〇² S07 08 24 28 48 62 65 76 北05 06 07 08 09 10 北大01 上博56 俄04 44 中村リ26 30

(2) 如是我聞。一時佛在王舎城耆闍崛山中。與

1 如¹ 〇¹ S07 08 24 28 48 62 65 76 北05 07 08 09 10 北大01 上博56 俄04 44 中村リ30、 如是
2 我聞一時佛在王舎城耆³ 〇³ 北06、 如是我聞一時佛在王⁴ 〇⁴ 北06、 如是
3 耆闍³ 〇³ S33
4 山⁴ 〇⁴ 北06

(3) 大菩薩摩訶薩及聲眷屬俱。亦與比丘比

1 大¹ 〇¹ S07 08 24 28 48 62 65 76 北05 07 08 09 10 北大01 上博56 俄04 44 中村リ30、 大² 〇²
2 摩訶² 〇² 北06、 大菩薩³ 〇³ 北06、 摩訶⁴ 〇⁴ S42
3 訶薩³ 〇³ S89、 訶⁴ 〇⁴ 北06、 訶⁵ 〇⁵ 北06、 訶⁶ 〇⁶ S89、 訶⁷ 〇⁷ 北06、 訶⁸ 〇⁸ S42

(私見)〇「聲」は明らかに「聲聞」の誤写であろう。

(4) 丘尼優婆塞優婆夷一切諸天人民及天龍

1 丘¹ 〇¹ S07 08 24 28 48 62 65 北07 08 09 10 北大01 上博56 俄04 44 中村リ30、 丘尼優婆
2 塞優婆夷一切諸天人民及天² 〇² S76、 北05、 丘³ 〇³ 北06
3 優婆夷³ 〇³ S89、 優⁴ 〇⁴ 北06
4 婆夷⁴ 〇⁴ 北03
5 姨⁵ 〇⁵ S23
6 一切諸天⁶ 〇⁶ S07
7 及天龍⁷ 〇⁷ 北03
8 天⁸ 〇⁸ 七

(5) 鬼神。皆來集會。一心聽佛說法。瞻仰尊顏。目

1 鬼¹ 〇¹ S07 08 24 28 48 62 65 北07 08 09 10 北大01 上博56 俄04 44 中村リ30、 鬼² 〇² 北06
2 神² 〇² ⊕³ 皆來集會。一心聽佛說法。瞻仰尊顏。目
3 皆來集會。一心聽佛說法。瞻仰尊顏。目
4 鬼神。皆來集會。一心聽佛說法。瞻仰尊顏。目

⊕1403b20

S76, 北05 ↑

2 一心聽佛說法□□07、一心聽佛說法瞻仰尊□□S76

3 法□□北06

4 煩S33

(6)不¹暫²捨。佛言。人生在世。³父母為親。非父不生。⁶
非⁷

1 不□□S7 08 24 28 48 62 65 07 08 09 10 01 56 04 44 30、不□北06

2 暫□□S53、暫寺七

3 人生在世父母為親非父□□S76

4 母□北06

5 母P19

6 養S76

7 不S33

(7)母¹不育。是以寄託母胎。懷身十月。⁴歲滿月充。⁶

母

1 母□□S7 08 24 28 48 62 65 07 08 09 10 01 56 04 44 30、中村リ

2 託母胎懷身十月歲滿S76

3 懷□北06

4 身十□□S53、娠P19

5 滿月↓月滿S33

6 月充□□S23

⊕1403c1
北07↑

(8)子¹俱顯。生²隨草上。³父母養育。臥則蘭車。⁴父母

1 子□□S7 08 24 28 48 62 65 08 09 10 01 56 04 44 30、子俱顯生隨

草上父母養育臥□□北07、子×寺七

2 墜S76

3 上父母養育臥則蘭□□S76

4 在S07 33、則蘭↓在欄P19

↑30↑
(9)懷¹抱。和³和弄聲。⁶含笑未語。⁸飢時須食。非母

1 懷□□S7 08 24 28 48 62 65 08 09 10 01 56 04 44 30、懷抱和和弄聲

含笑未語□□リ30

2 抱×寺七

3 和和↓啾啾 S53 76

4 和弄□北06

5 擗 S07 23 33 53 89 P19 85 北05 07 11、 柝 北03

6 聲含笑未語飢時須食□ S76

7 含笑↓合咲、哭寺七

8 咲 S23 33 42 53 89 P19 85 北03 05 07 11

北08[↑]
(10) 不哺。渴時須飲。非母不乳。母中飢時。吞苦吐

甘。

1 不^レ□ S7 08 24 28 48 62 65 北09 10 北大01 56 俄04 44 中村、不哺渴時須飲非

母不乳母中飢時□北08

2 時× S33 北07

3 非母不乳母中飢時吞□ S76

4 中× S33、忽 S42 03 06

5 吞苦□ P30

6 苦^レ□北08

7 吐□北11

(11) 推乾就濕。非義不親。非母不養。慈母養兒。

1 推^レ□ S7 03 24 28 48 62 65 北09 10 北大01 56 俄04 44 中村、廻 S53、推乾就濕

非義不親非母不養慈□北08

2 就濕↓去日、去溼寺七

3 義× S33

4 親非母不養慈母□ S76

5 眷寺七

6 兒 S42 P19、兒□北08 11

⊕1403c5
(12) 去離蘭車。十指甲中。食子不淨。應各有八

1 去^レ□ S7 08 24 28 48 62 65 北09 10 北大01 56 俄04 44 中村、去離蘭車十指甲

中食子不淨應□去□北11

2 欄 P19

3 子不淨應各有□ S76、子×北07 七寺

俄44[↑]
(13) 斛四^レ。計論母恩。昊天罔極。嗚呼慈母云何可

斛四^レ。俄44

計論母恩。昊天罔極。嗚呼慈母云何可

(14) 報¹。阿難²白佛言³。世尊⁴。云何可報其恩⁵。唯願說⁸之。

1 斛^レ□ S7 08 24 28 48 62 65 北09 10 北大01 上博56 俄04 44 中 計 S42、斛四計

2 斗 S07 23 33 89 P85 北05 06 俄44 26 30 七 寺、計 S42

3 說 S42 北03

4 母 □ 30

5 天 × S23 北05

6 嗚呼慈母云何 □ S76、嗚^レ □ 俄44

7 啐 P19

8 母 × S33、母 □ 30

9 可 □ S07 北11

(私見) ○「斛」は一〇斗(諸橋辞典、五卷六一三a)、「斗」は一〇升(同、五卷六〇七b)。
○「計」は「斗」の俗字である(諸橋辞典、五卷六一三a)。
○「極」は「極」の俗字であろうか。⊕では「極」と印字している。

上博56⁷

(15) 佛告阿難¹。汝諦聽²。善思念之⁴。吾當為⁵報^レ □ S7 08 24 28 48 62 65 北09 10 北大01 上博56 俄04 44 中 報^レ 報其恩 S33 P85 北05

1 報^レ □ S7 08 24 28 48 62 65 北09 10 北大01 上博56 俄04 44 中 報^レ 報其恩 S33 P85 北05

2 阿難白佛言世尊云何可報 □ 北08、阿^レ × 七 寺

3 曰 S33

4 尊 ↓ 尊父母 S42 北03

5 何可報其恩唯願說 □ 俄44

6 能 S76、可報 ↓ 報可 北05

7 恩唯願說 □ S76

8 唯^レ □ 北11

1 佛^レ □ S7 08 24 28 48 62 65 北09 10 北大01 上博56 俄04 44 中 佛告阿 □ 北11、佛告阿

2 告阿難汝諦聽善思念之 □ 北08

3 汝 ↓ 汝等 S33 P19 北05、汝好 S42 北03、汝今 S53 76 北07、汝當 S89

4 之吾當為 □ S76

5 唯 S42、為 □ 北11

難汝諦聽善 □ 上博56、佛^レ × 七 寺

S48¹ (16) 汝¹。分別解説。父母之恩²。昊天罔極³。云何⁴。

1 汝¹ □ S7 08 24 28 62 65 北09 10 10 北大01 俄中 汝分別解説父母之恩 昊

□ S48、汝 □ S76、汝分別解説父母 □ 11、汝分別解説 □ 56、
汝¹ × 寺 七

2 母¹ □ 北08

3 諸 P19

4 何¹ ↓ 何可報 S07 15 23 33 42 48 53 89 P19 85 03 05 06 07 56 44 26 30、 ↓

□ 可報 北08、何 □ S76、↓ 何可 □ 北11

(私見) ○「極」については(13)の(私見)と同じ。

○「云何」は註記のように「云何可報」が適當であらう。

⊕1403c10 中村¹ (17) 若有孝順慈¹ 孝之子²。能為父母³。作福造經⁴。惑⁵以⁶ 七月

1 若¹ □ S7 08 24 28 62 65 北09 10 10 北大01 俄中 若¹ □ S76、若有孝順慈 □ 北11、

若有孝順慈孝之子能為父母作福造經 □ 中村

2 孝順慈孝之子 □ S48

3 慈孝 × 42 03、慈孝之 □ 上博56

4 作福造經惑以 □ S76

5 寫 S53

6 或 S07 15 23 33 42 48 53 89 P19 85 03 05 06 07 08 56 44 26 30、 惑¹ □

北11、惑以七 □ 俄44

(私見) ○「惑」は明らかに「或」の誤写であらう。

(18) 十五日¹。能造佛槃² 五蘭盆³。獻佛及僧⁴。得果无⁵ 十⁶

1 十¹ □ S7 08 24 28 62 65 北09 10 10 北大01 俄中 十五日能造佛槃 □ S48、十

五 □ 北11

2 造佛槃 孟 □ 上博56

3 槃 ↓ 盤名 S23 北06、槃名 S42 北03 七寺、盤 P19 北08 七

4 獻 ↓ 獻及 北07

5 及僧得 □ S76、及僧得果 □ 俄44

6 僧¹ □ 北11

7 無 S07 48 53 76 北05 中 26 30

(19) 量。能報父母之恩。若復有人。書寫此經。流布

世

1 量^レ□ S7 08 24 28 62 65
北09 10 量能□
北大01 俄04、北11

2 父母之恩若□
上博56

3 人×
北06

4 書寫此經流布□ S48、書寫此經□ S76、書□
北08

5 此^レ□ 北11、此經流□
俄44

北09[↑]
(20) 人。受持讀誦。當知此人報父母恩。父母云何可

1 人^レ□ S7 08 24 28 62 65
北10 北大01 俄04、人受□
北09 11

2 誦當知此人□
上博56

3 當×寺
七

4 人^レ人能^レ
30

5 報父母恩父□ S76

6 父□
30

7 母^レ□ 北11、母恩父母□
俄44

『父母恩重經』の『古本』校異

8 恩×村寺、恩□
中七 30

(21) 報。但父母至於行來東西隣里。井竈確磨。

1 報^レ□ S7 08 24 28 62 65
北10 北大01 俄04、報□
北11

2 但 48 53

3 來東西隣里井竈□ S76

4 隣里井竈□
俄44

5 里^レ里一 S33、里^レ□
北11

6 磨 P 19

⊕1403c15
北10[↑]
(22) 不時還家。我兒家中。啼哭憶我。即來還家。

1 不^レ□ S7 08 24 28 62 65
北大01 俄04、不時還家□
北11

2 家×
北10

3 我×
北03

4 兒 S33 42 P 19

5 啼哭□
北10

6 哭憶我即來□ S76

7 我↓母母即来還家已知家中我兒憶我即得汁出42、母母即

心驚兩乳知家中我兒憶我即汁出03、母即心驚兩乳汁出即

知家中我兒憶我寺、我即来還□44

8 即□
北11

9 来□
北10

(23) 其兒遙見我来。惑在蘭車。搖頭弄腦。惑復

1 其□
S7 08 24 28 62 65
北大01 俄04、其□
北10、其兒遙見我来□
北11

2 兒
P19

3 遙□
リ30

4 母
七寺

5 或
S07 15 23 33 42 48 53 76 89
P85 北03 05 06 07 08 09 10 11
上博56 俄44 中村
リ26 七寺

七寺、惑在↓或作
P19

6 拵
S07 23 33 48 89
P19 85
北03 05 06 07 08 09 10
上博56 俄44 中村
リ30、林
S42、弄腦

□
S76、弄□
北11、拵
七寺

7 腦□
俄44、腦
七寺

8 或
S07 15 23 33 42 48 53 76 89
P85 北03 05 06 07 08 09
上博56 俄44 中村
リ26 七寺、惑復

↓復或19、惑×
北10

(私見)○「惑」は明らかに「或」の誤写であろう。

○「腦」は「腦」に同じ字である(諸橋辞典、九
卷三一七a、三四一a)。

↑ S15
(24) 曳腹隨行。嗚呼向母。母為其子。曲身下就。長

1 曳□
S7 08 24 28 62 65
北大01 俄04、曳腹隨行嗚呼□
北11、电
七寺

2 隨×
七寺

3 嗚
P19

4 母×
俄44

5 其子曲身下□
S76

6 曲□
北11、與
七寺

7 就□
俄44、註
七寺

8 長□
S15

(25) 舒兩手。拂拭塵土。嗚和其口。開懷出乳。以乳

1 舒□
S7 08 15 24 28 62 65
北大01 俄04、舒兩手拂拭塵
北11

2 拂□
リ30、佛
七寺

(26) 與¹之。母見²兒歡。兒見³母喜。二情恩⁷悲親愛⁸

3 唯寺七
4 和其口開懷出乳□⁷⁶、呼⁴²北⁰³
5 口開懷□⁴⁴俄
6 聞寺七
7 懷¹¹北
8 以乳×³³、與⁴²北⁰³

1 與⁷□⁰⁸、¹⁵、²⁴、²⁸、⁶²、⁶⁵、⁰¹、⁰⁴、⁵³、與之母見兒歡□¹¹北

2 母□⁴⁴俄
3 兒³³、⁴²、¹⁹
4 喜×³³
5 母×^七寺
6 兒¹⁹
7 恩¹¹北
8 受^七寺

⊕1403c20 (27) 慈¹重。莫復²。二歲三歲。弄意⁴始行⁶。於其食⁷

⊕1403c20 (28) 時¹。非母不知。父母行來。值他座²席³。惑得⁴餅肉⁵。

1 慈⁷□⁰⁸、¹⁵、²⁴、²⁸、⁶²、⁶⁵、⁰¹、⁰⁴、⁰⁷、⁰⁸、⁰⁹、¹⁰、¹¹、⁵⁶、⁴⁴俄北

2 莫復×¹⁹
3 復⁷、復過此⁰⁷、復過此²³、復過此³³、復過此⁴²、復過此⁴⁸、復過此⁸⁵、復過此⁰⁵、復過此⁰⁶、復過此⁰⁸、復過此⁰⁹、復過此¹⁰、復過此¹¹、復過此⁵⁶、復過此⁴⁴俄北

4 中村²⁶、³⁰、³³、⁴²、⁷⁶、⁸⁹、¹⁹、⁸⁵、⁰³、⁰⁵、⁰⁷、⁰⁸、⁵⁶、⁴⁴、³⁰、⁴⁸、⁰⁶、⁰⁸、¹⁰、¹¹、⁵⁶、⁴⁴俄北

5 胎³³、^七寺
6 行¹¹北
7 於其¹⁹、^{於其}
8 真^七寺

(私見)○「莫復」は07のように「莫復過此」が最適であらう。

1 時⁷□⁰⁸、¹⁵、²⁴、⁶²、⁶⁵、⁰¹、⁰⁴、⁰⁷、⁰⁸、⁰⁹、¹⁰、¹¹、⁵⁶、⁴⁴俄北

2 時²⁸、³³、^{非母不知}
3 時³³、^{非母不知}
4 時³³、^{非母不知}
5 時³³、^{非母不知}
6 時³³、^{非母不知}

↑ S 42

(29) 不噉¹ 噉² 味³。懷⁴ 挾⁵ 来⁶ 歸⁶。向⁷ 其⁷ 與⁷ 子⁷。十⁸ 来⁸ 九⁹ 得⁹。恒¹⁰ 常¹¹

(私見)○「惑」は明らかに「或」の誤写であろう。

- 1 不¹ □ S7 08 15 24 62 65 北大01 俄04、不 □ S28、不噉¹ □ 北11
- 2 敢² S33 七寺、噉² □ 俄44
- 3 噉³ P19 北03、味³ 七寺
- 4 懷⁴ 挾⁴ ↓ 還⁴ 七寺
- 5 挾⁵ S53 76 北03 10、挾⁵ □ S42
- 6 来⁶ 歸⁶ ↓ 歸⁶ 来⁶ P19
- 7 家⁷ S07 北03、其⁷ 與⁷ ↓ 與⁷ 其⁷ S23 53 76 P19 北05 06 07 09 11 上博56 俄44 中リ 30、其⁷ 與⁷ 子⁷
- 2 坐² P19 85 北05 11 上博56 俄44 中リ 30 七寺、座 □ 北08
- 3 席³ □ 北11
- 4 或⁴ S07 23 33 42 48 53 76 89 P19 85 北03 05 06 07 08 09 10 上博56 俄44 中リ 26 30 七寺
- 5 餅⁵ 肉⁵ ↓ 解⁵ 完⁵ 七寺
- 6 食⁶ 北05
- 惑^惑 □ S28
- 父 □ 北11

(30) 歡¹ 喜¹。一² 過³ 不³ 得³。嬌⁴ 啼⁴ 伴⁵ 哭⁶。嬌⁷ 子⁷ 不⁷ 孝⁷。必⁸ 有⁸ 五⁹

(私見)○「挾」は「挾」と同じである(諸橋辞典、一卷七九七b、五卷二四一b)。

- 1 歡¹ □ S7 08 15 24 42 62 65 北大01 俄04、歡¹ □ S28 北11、歡¹ 喜¹ 一² 過³ 不³ 得³ ×
- 2 一² 過² □ 北09
- 3 迴³ P19
- 4 摘⁴ P19 七寺、嬌⁴ 七寺
- 5 伴⁵ S33
- 6 哭⁶ 嬌⁶ 子⁶ 不⁶ 孝⁶ 必⁶ 有⁶ □ 北11
- 7 嬌⁷ × S28、嬌⁷ 七寺
- 8 必⁸ 有⁸ ↓ 又⁸ 必⁸ S07 23 28 48 53 76 89 P19 85 北03 05 06 07 08 09 10 上博56 中リ 26
- 9 久⁹ 七寺
- 10 恒¹⁰ □ S33
- 11 當¹¹ 七寺
- ↓ 以其^子 S33、其^子 × S28 48 89 P85 北08 10 中リ 26 七寺
- 30 七寺、必^又 又^又 S33、必^有 五^五 ↓ 又^必 不^不 俄44

⊕1403c25

(31)

9 五↓五之
S 28

1 擿¹。孝子不懷²。必有慈順。遂至長大⁵。朋友相隨⁷。

⊕1403c25

1 擿¹ □ S7 08 15 24 42 62 65
北大01 俄04、橋 S89

2 孝子 □ 北09

3 子× S28

4 橋 S07 23 28 33 48 53 76 89
P19 85 北03 05 06 07 08 09 10 11
上博56 俄44 中リ 26 30、

嬌寺

5 遂至 □ 北08、遂至長大朋友 □ 北11

6 長¹ □ 俄44

7 有 S33

(私見) ○「擿」は「テキ、タク」と読み「投る、ひらく、

うつ、きざむ」などの意味がある(諸橋辞典、

五卷四三六d~四三七a)。なお⊕には「擿」と

あって読みは「擿」と同じだが、意味は「擿」

と同じで(諸橋辞典、六卷五九七a)。「のぎ、

糸まき、音」である(五〇六b)から、ここで

は「擿」のほうが適当であろう。

○「懷」は明らかに「橋」の誤写であろう。

(32)

1 梳頭¹摩髮²。欲得好衣覆蓋身體⁵。弊衣破故父母⁸

1 梳¹ □ S7 08 15 24 42 62 65
北大01 俄04、梳頭 □ 俄44

2 摩 □ 北09

3 衣 □ 北30

4 蓋身體幣衣破 □ 北11

5 體¹ □ 俄44

6 衣× 北07

7 破故↓故破 S33 53 P19

8 母 □ 北09

(33)

1 自着¹。親好綿帛先與其子⁶。至於行來⁷。官私急

1 自¹ □ S7 08 15 24 42 62 65
北大01 俄04、自 □ 北09 俄44

2 新 S07 23 28 33 48 53 76 89
P19 85 北03 06 07 08 09 10 11
上博56 俄44 中リ 26 30、親

×寺

3 帛× S28、自寺

4 先¹ □ 俄44

5 與× S33、以 P19、与 北11

6 其子至於□
北11

7 於行来↓於来行33、行於来
S 北03

(私見)○「着」は⊕に「著」とあるが「著」は誤植であ
らう。

○「親」は「新」の誤写であらう。

(34) 疾¹。傾心南北。逐子東西。横上其頭。既索妻婦。

1 疾¹□ S7 08 15 24 42 62 65
北大01 俄04 44

2 東□08、東西横上□
北11

3 横上其頭既↓還替上頭即寺
七

4 上其頭↓管頭上³、緇上頭⁵
北03、北06 09

5 頭□48、頭↓心
S 北10

6 既×
北07

7 常
P 19

S 65 ↑
(35) 得¹他子女。父母轉²疎³。私房屋室共相語⁴。父

1 得¹□ S7 08 15 24 42 62
北大01 俄04 44、得他↓他得³、
得他子女父

母轉□65、取寺
S 七

2 轉疎私□
北11

3 疏³ S07 28 89
P 19 北10 中

4 秘寺
七

5 屈
北08

(私見)○「疎」は⊕に「疏」とあるが、いまは底本に従
う。なお「疏」の俗字は「疎」であり(諸橋辞
典、七卷一一四五d)、「疎」の譌字は「疎」で
ある(同、一〇卷九二四c)。

⊕1404a1
S 24, 北大01 ↑
(36) 母¹年高。氣力衰老²。終朝至暮不³來借問。惑復⁴

1 母¹□ S7 08 15 42 62 04 44、母年高氣力衰老終朝至暮不³
北大01 俄

2 母年高氣力衰老終²□
北大01

3 不³□
北大01

4 或⁴ S07 23 24 28 48 53 65 76 89
P 19 北03 06 07 08 09 10 11
上博中⁵ 56 26 30 七寺

5 復× S 24

惑復↓復或⁵、惑復↓或後⁵
北05、S 33

(私見)○「惑」は明らかに「或」の誤写であらう。

↑ S33

(37) 父¹孤²母³寘³。獨⁴守空房。猶⁵如客人寄止⁶他舍常⁷

S33

1 父¹ 〓 S7 08 15 42 62 俄04 44、父孤母¹ 〓 北大01

2 母寘獨守空房猶² 〓 S24

3 宣³ S07 76 北06、京 S28 33 53 P19 85 北05 08 10 11 上博56 中村、宣 S89 北07 09、寘³ 〓 26、

寘³ 〓 30、窠 北大01 七寺

4 獨守⁴ 〓 北11、獨⁴ 〓 S33

5 由⁵ 北03

6 人⁶ × 七寺

7 於⁷ S24 65、心 S28

(38) 无¹恩²愛²。復³无⁴濡⁵被⁶。寒⁷苦⁷辛⁷厄⁷難⁸遭⁸之⁹甚¹⁰。年¹¹老¹²

1 无¹ 〓 S7 08 15 33 42 62 俄04、無 S07 24 48 53 76 P19 85 北05 10 11 北大01 上博56 中村

26 30、无恩愛復无濡被² 〓 俄44

2 思² S28

3 復无濡³ 〓 北11、須³ 七寺

4 無 S07 24 48 76 P19 北05 10 北大01 中村 26 30

『父母恩重經』の『古本』校異

5 襦 S24 65、襦 S53 76 北07、襦 北03 10、襦 P19、襦 七寺

6 被⁶ ↓ 被飢寺⁶

7 苦⁷ 辛 ↓ 辛⁷ 〓 S65、苦 × 北10

8 遭⁸ 之⁸ 〓 俄44

9 之 × 北07

10 其¹⁰ 七寺

11 人¹¹ S65

12 老 ↓ 老弱 北10

(39) 色¹衰¹。多²饒²蟻²虱³。夙⁴夜不臥。長⁵呼⁵歎⁶息。何罪宿

1 色¹ 〓 S7 08 15 33 42 62 俄04、色衰 ↓ 衰弱 北03

2 多饒蟻² 〓 北11

3 虱³ S28

4 宿⁴ S24 65 七寺

5 吟 S23 24 48 65 北06 09 七寺、吁 S07 28 53 76 89 P85 北03 05 07 08 10 11 北大01 上博56 中村

26 30

難⁶ 七寺

(私見)〇「呼」は「吁」とあい通じる字である(諸橋辞典、二卷七九二b)。なお「呼」も「吟」も「吁」

も「なげく」の意。

⊕1404a5

(40) 憊¹。生²此³不孝⁴之子⁴。惑⁵時⁶喚⁷呼⁷。瞋⁸目⁹驚⁹怒⁹。婦

1 憊¹、
S7 08 15 33 42 62
04、
S48 48
P19 19
北03 03
10 10

2 生²×
P19、
北11

3 此³×
七寺

4 子⁴×
北08

5 或⁵
S07 23 24 28 48 53 76 89
P19 85
北03 05 06 07 08 09 10 11
北大博上 01 56 44 26 30

七寺、
惑時⁵↓
時有⁶
S65

6 喚⁶呼⁶↓
北03 10

7 呼⁷×
北07

8 嗔⁸
S07 23 48 53 76
北06 07 09 44 30
俄リ七寺

9 目⁹×
S65

(私見)○「惑」は明らかに「或」の誤写であろう。

○「瞋」は「嗔」に通じる字だが(諸橋辞典、二卷一一一九c)「嗔」の方が一般的であろう。

○「婦」は⊕に「歸」とあるが「歸」は誤植であらう。

S08 7

(41) 兒¹罵²詈²。伍³頭³含³笑⁴。妻⁵復⁵不⁶孝⁶。子⁷復⁷五⁷撻⁷。

1 兒¹、
S7 15 33 42 62
04、
S08 08
P19 19

2 罵²詈²↓
S07、
罵詈²
北11

3 哈³
S65

4 咲⁴
S07 23 28 48 53 65 76 89
P19 85
北03 05 06 07 08 09 10 11
北大博上 01 56 44 26 30

七寺

5 不孝⁵子⁵復⁵×
北03

6 孝⁶、
S08

7 又⁷
S76

(私見)○「伍」は「低」の俗字である(諸橋辞典、一卷六四二d)。

○「笑」の俗字は「咲」である(諸橋辞典、二卷一一二六a)。

○「撻」については(31)の(私見)と同じ。

(42) 夫¹妻²和³合³同⁴作⁴五⁵逆⁵。彼⁵時⁶喚⁶呼⁶。急⁷疾⁷取⁷使⁷。

1 夫¹、
S7 15 33 42 62
04、
S08 08

2 妻²、
北08、
北11

3 和³合³↓
S24 24
65 65

6 下啼↓啼下
北07

5 俱寺
七寺

4 霍寺
七寺

3 懊惱↓懊惱
P 19、
俄44

2 知19、之□
北05

1 在□
S 7 15 33 42 62
俄04、在地上父母聞之悲哭□
S 08

(44) 在地上。父母聞之。悲哭懊惱。流淚雙下。啼哭目

3 如□
S 08

2 膺07 24 28 53
北03 07、
七寺

S 24 65

1 十□
S 7 15 33 42 62
俄04、十喚九違盡不從順□
S 08、十喚九違×

(43) 十喚九違。盡不從順。罵冒瞋恚。不如早死。強

7 疾□
S 08

6 喚呼↓呼喚
S 65
北03 10
上博56

5 彼×
七寺

4 同作五↓作同
P 19

7 無
S 07 24 48 76
北05 08 10 11
北大01
中村
リ26 30

6 大寺
七寺

5 汝不如本□
俄44

4 吾
S 07 08 23 24 28 48 53 76 89
P 19 85
北03 05 06 07 08 09 10 11
北大01
上博56
俄44
中村

3 但
S 48 53
P 19
北大01
中村、
但↓但非
リ26

2 吾
S 07 23 24 28 48 53 65 76 89
P 19 85
北03 05 06 07 08 09 10 11
北大01
上博56
俄44
中村
リ26

(45) 腫。汝初小時。非五不長。但五生汝。不如

1 腫□
S 15 33 42 62
俄04、腫汝初小時非五不長但五生汝不知本

□
S 7、腫汝初小時非五不□
S 08、腫

S 07 23 24 28 48 53 65 89
P 85
北03

05 06 07 08 09 10 11
北大01
上博56
中村
リ26

05 06 07 08 09 10 11
北大01
上博56
中村
リ26

⊕1404a10
↑ 俄44
S 7 ↑

本6
无7
S 7
俄44

⊕

(私見)「〇」は「惱」に同じである(諸橋辭典、四卷一〇四九b)。

(私見)○「腫」は明らかに「腫」の誤字であろう。

○「五」は二語とも明らかに「吾」の誤写である。ちなみに(15)に「吾」の字がみられる。

↑ P 19
俄04 ↑

(46) 佛告阿難。若善男子善女人。能為父母。受持

1 佛告阿□08、佛□15 33 42 62 44、佛告阿難若善男子善女

人□
俄04

2 若↓若有 24 53 65 76 北07 10 寺

3 善男子善女人能為□S7、善×北08

4 人↓人若 P19

5 能×24 65、能為↓若能 P19

6 母□ P19

(47) 讀誦書寫父母恩重大乘摩訶般若波羅蜜

1 讀□15 33 42 62 P19 44、讀誦書寫×S7 65、讀誦書寫父母恩

大重乘摩□
俄04

2 書寫×S24

3 摩訶般若波羅□S7

4 密 S65 北11 上博56

(48) 經。一句一偈一逕耳目者。所有五逆重罪。悉

1 經×S7 65、經□15 33 42 62 P19 44、經一句一偈一逕耳目者

所有五□
俄04

2 一×S28 北03 07

3 經 S7 23 24 65 北06 09 寺、逕 S53 76 北10 11、逕 S28

4 耳目者↓其耳 北10

5 者×S28

6 有□ S7

(49) 得消滅。永盡無餘。常得見佛聞法。速得解

1 得□ S15 33 42 62 P19 44

2 滅永盡無餘常得見佛□
俄04

3 無 S07 24 48 北05 10 11 北大01 中村リ 26 30

4 得×村

5 見□ S7

⊕1404a15

(50) 脱¹。阿難從座而起。偏袒有肩⁶。長跪合掌⁹。前¹⁰

1 脱↓脱介時、脱↘□
北03、
S 15 33 42 62
P 19
俄44

2 阿難從座而起偏袒有□
俄04

3 坐 S7 24 65 七寺、
北03

4 徧 北11

5 程 S 65 89、但
リ 26

6 右 S 7 07 08 23 24 28 48 53 65 76 89
P 85
北03 05 06 07 08 09 10 11
北大01 上博56 中村リ 26

30 七寺

7 肩長跪合掌□ S7

8 長跪× 24 65
S

9 掌↓掌向佛²⁴、掌向佛阿難^{S 65}

10 前× 23 48 06 09
S 北

(私見)○「有肩」は明らかに「右肩」の誤写であろう。

(51) 白佛言。世尊。此經云何名之。云何奉持。

1 白↘□ 15 33 42 62 19 44
S 俄

2 佛言世尊此經云何名之□
俄04

『父母恩重經』の『古本』校異

3 當 S 7 24 53 65 76
北03 07 七寺

4 名↘□ S7

5 云何×
リ 30

6 奉持×
S 65

(52) 佛告阿難。此經名父母恩重經。若有

1 佛告阿□ S7、佛↘□ 15 33 42 62 19 44、佛↓介時佛^{北03}、佛告

□ 俄04

2 此× 23 06 09
S 北

3 重× 07 28 89 北11
リ 30

4 經× S 7 24 65

(53) 一切衆生。能為父母。作福造經燒香。請佛禮拜。供

(54) 養三寶。惑飲食衆僧。當知是人能報父母

1 一↘□ 15 33 42 62 19 44、一切衆生□ S7、一切× 24 65
S 俄

2 能為父母作福造經燒香請佛禮拜供養三寶惑飲食衆僧
↓能為父母或七月十五日造佛髮名為盂蘭盆獻佛得果 S 65

(關係写本は S 7 24 65 のみ)

1 能為父母□□S7、能×S24

2 日↓日能S24

3 盤S24

4 蘭く□□S7

3 請佛×北10

4 或S07 08 23 28 48 53 76 89 P85 北03 05 06 07 08 09 10 11 北大01 俄博56 中村26 上リ30、

5 當知□□S7 及七寺

6 能×S7 24 65

(私見)○底本に対する2の相違経文は(53)と(54)に

またがっているので両者を併記する。

○2の相違経文はS7と24と65にのみ見られるが、

いまは65の経文を底本とし校異する。

S

○「惑」は明らかに「或」の誤写であろう。

1404a20 S62 ↑

(55)其恩。帝釋梵王諸天人人民一切衆生。聞經歡

⊕ S62

1 其恩帝□□S62、其×S7 24 65、其く□□S15 33 42 P19 俄44

2 神北03 俄04

3 諸×北08

4 人く□□S7

(56)喜。發菩薩心。嚀哭動地。淚下如雨。五體投地。信

1 喜く□□S15 33 42 P19 俄44

2 發善□□S62

3 提S7 24 53 65 76 北03 07 俄04 七寺

4 啼S7 24 65 北03 俄04 七寺

5 頭S7 65

6 信□□S7

(私見)○「菩薩心」は「菩提心」の誤写であろう。

(57)受頂礼佛足。歡喜奉行。

S65 北07 上リ26

1 受く□□S7 15 33 42 P19 俄44

2 持り26

↑ S65, 北07, リ26

礼 53 57	有 50	五 45	腫 45	尖 22 30 44 56	惱 44	送 42 48	伍 41	婦 40	倦 40	寘 37	踈 35	親 33	着 33	盖 32	擿 31 41	无 18 38 45 49
禮 4a18 4a22	右 4a14	吾 4a9	腫 4a9	哭 3c15 3c23 4a8 4a9 4a21	惱 4a8	逆 4a6 4a13	低 4a5	歸 4a5	愆 4a4	寡 4a1	疏 3c28	新 3c26	著 3c26	蓋 3c25	擿 3c24 4a6	無 3c11 4a2 4a10 4a13

このうち「𩇛」「𩇛」「𩇛」「无」「盖」「踈」「𩇛」「𩇛」「𩇛」「𩇛」「𩇛」「𩇛」「𩇛」は異体字、俗字、略字の類である。「𩇛」の音は「𩇛」と同じであるが、意味の上からみてここでは「𩇛」でなければならぬであろう。

「惑」「親」「腫」「五」「有」は前後の文意からみて、底本写経時の誤写であることは明白である。それは対校に用いた他の写本にそれぞれ「或」「新」「腫」「吾」「右」とあって、いずれもそのほうが文意の上で正しいことから明らかである。ところで『大正蔵経』ではなんら註記し断わることなく、それら正しい字に訂正し印刷している。もっとも1404a1に出る「惑」の場合だけは底本どりに印刷されていて、脚註にS07には「或」とあると註記しているがこれはむしろ例外である。但しこの場合も、中村不折本が対校テキストに用いられているにもかかわらず、中村本でも「或」とある旨が註記されていないのを見ると、『大正蔵経』の校異作業が杜撰であったと指摘せざるをえない。以上のことから、『大正蔵経』の活字印刷本を見る限りでは、底本に「惑」や「親」などの誤写があることはわからないのである。

底本には「着」「婦」とあるのを『大正蔵経』では「著」「歸」と印刷し、そのことでも註記がない。文意からみて当然、「着」「婦」のほうが正しい。思うに『大正蔵経』は、単なる誤植か校正ミスであると考えられる。そこで『大正蔵経』を見る限りでは、底本に「著」とか「歸」とあるものと理解されてしまうであろう。

③写本それぞれの行どり、改行個所、各行の字数などはまちまちである。また行線の有無、卷子本か冊子本かの違い、前後における他の經典の連写の有無、奥書きの有無もまちまちである。すなわち各写本の形態は一定していない。

④ほとんどの写本は写しっぱなしで、校正がなされていないようにみられる。写経した経文を読みかえせば、前後の文脈から誤字や脱字に当然気づいたはずなのに、それが放置されたままになっているからである。

そうした中でS07と北05と北44では、写し落とした字を当該個所の欄外右側に小さく書き入れている。また北07では(37)の「父」を「父母」と誤写し、(44)の「父母聞之」を「父母之聞之」と誤写している。しかしそれに気づいたとみえ、それぞれ余分な「母」と「之」の字の右脇に「ト」の印を付し、不要な文字であることを示している。また七寺では(21)

の「里」を「黒」と誤写したためその右脇に「里」を付記している。いずれもむしろ例外的でめずらしい例である。

⑤ S33は誤写が目立つ。

⑥ S42は(29)までしか現存していないが、それ以前の経文についてみただけでも北03とよく合う。それぞれの親本が同じであつたからであろう。両写本に共通しているバリエアントで、他の写本にみられない例を左に列記してみたい。

(3) 註4の「聲聞衆」

(4) 註6の「龍王」

(13) 註3の「説」

(14) 註4の「尊父母」

(15) 註3の「汝好」

(17) 註3の「慈孝×」

(18) 註3の「槃名」

(25) 註4の「呼」

この他(22)註7はS42が「母母即来還家已知家中我兒憶我即得汁出」、北03が「母母即心驚兩乳知家中我兒憶我即汁出」、寺七が「母即心驚兩乳汁出即知家中我兒憶我」とあつて、それぞれの経文は完全に一致してはいないが、文意は共通している。実はこれらの経文は、寺七はほぼ同文で『丁蘭本』(16)にみられるし、またS42と北03も『丁蘭本』に極めて近似しているのです、これら三本は『丁蘭本』のおもかげを他より多く残しているといえよう。